

## 第6回 恵那南地区中学校再編委員会 会議録

・日時 平成27年10月27日(火) 19:30～

・会場 岩村振興事務所 大会議室

・出席者 小中学校代表 春日井尚武、小板忠昭

こども園代表 千藤まゆみ

地域自治区代表 山本純、西尾公男、黄地尚幸、阿部道長、堀真人、安藤良一

安藤仁志、川上貞夫、大島将官

中学校PTA代表 近藤祐司、松下雅昭、成瀬浩司、横光基

小学校PTA代表 小川道義、加藤信之、渡邊大剛、川上渡、高井良三

こども園保護者会代表 森井清、小木曾耕司、成瀬一、伊藤寛隆、堀雄二、川上翔

恵那南地区中学校あり方検討委員会委員 鈴木峰夫、中垣貞好

行財政改革審議会代表 柘植麻美

振興事務所長 西尾茂文、後藤光男、勝川甲子、三宅勝彦、安藤英幸(代理)

教育委員会 大畑雅幸

事務局 門野幸次郎、岡田庄二、土屋育代、安藤一博、西尾克子、梅村浩三

石田祐一、山田耕司

・欠席者 地域自治区代表 原田知典

中学校PTA代表 伊藤昌治

総合計画審議会代表 西村貢

地域自治区会長会議代表 樹神和昭

事務局 度會将仁

・委員会内容

1. 開会挨拶 委員長、教育長

2. 議事

委員長 : それでは、議事に入ります。

(1) 望ましい学校環境について

事務局より資料に基づき説明

事務局 : 本日のグループ討議は、事前に配布した資料に基づき、各地区から出された意見を参考に、施設面から利用の可能な学校を想定して、グループ討議していただきたい。

グループ討議

## グループ討議の結果

- 1 既存校利用（想定校）
  1. 山岡中学校
  2. 明智中学校

理由 山岡中学校

- 中心的観点から利用できる。
- 部活動などへの教育環境が優れている。

理由 明智中学校

- 改修費が安く、負担が少ない。
- 学校施設が密集しており、教育環境が優れている。
- 明知鉄道を有効的に利用できる。

- 2 新築校案も検討する。 場所は山岡地区、明智地区で検討してはどうか。

理由

- 新しい校舎を建築すれば夢がある。受け入れ易い。
- 通学に明知鉄道の利用ができる。
- 地域的メリットが見出せる部分で場所を考える必要がある。

委員長 : 今出された結果によりシミュレーションして、次回は検討していく。

委員 : 串原地区から意見にあった、場所の位置づけはしないといけないと思う。

事務局 : 第3回の資料2、居住地分布図に居住分布中心地の印がしてある。あくまでも家屋のある区域を縦と横に十字に線を引き、交わった位置を示している。人口の中心となると、この位置とはズレるかもしれない。

委員長 : 次回は、教育委員会から詳しい資料を出していただき検討していきたい。  
議題の3その他に入ります。

委員 : 不安や疑問を地域で説明されているが、出た意見を共有するように、この場で議論すべきではないか。地域で会議内容を説明するのが、統合と時期の議論だけでは何を話してきたのかとなる。保護者が心配されている議論が何もされていない。今後こういう話はどこでされるのか。このことを議論するのがこの会ではないか。

委員長 : 今後、議論することは沢山あるが、この委員会は、諮問されたことを議論して答申ができるようにまとめていくものである。

委員 : 説明会では、メリットだけ説明されて、デメリットが説明されていない。リスクを負いながら、新しい学校づくりのために苦渋の決断をする人もいる。地域の声を聞かなければいけない。時期と場所だけに限定せずに、みんなが納得できる学校

再編になると良い。

委員長 : 今のご意見について他の委員はどのように思いますか。

委員 : 委員長の言っていることはよくわかるが、言いたいことや思っていることが言えない。モヤモヤした気持ちのままこの場に来ている。どこで言えばいいのか、誰が答えてくれるのか。明確にしてもらえると気持ちが晴れる。

教育長 : 昨年度のあり方検討委員会では、自分達の意見を述べる時、要望をする時に場所が決まらなと想定がしにくいという意見があった。今年度はこの会で場所と時期について諮問され、答申をしていく。来年度あたりがスタートだと思う。順番に階段を上がりながら進めていくが、子どもが急激に減少しているので、相反することを含みながら進めていかなければならない。来年度以降は、先ほどの要求のあった保護者の不安などをじっくり話をしていく。教育委員会として恵南地域を1校にしたい、場所をこの辺に想定しているというような立場で話をしていく。まだまだ各地区での説明会が不十分であるので、今後も平行して行う。

委員 : 答申で場所と時期が決定すると、統合は決まったと捉えないか。

教育長 : 事務局は初めからそう進めたいと願っている。

委員 : 答申で即、決まるというものではない。場所と時期を確定させて、進むのではなくて、この委員会として答申をして、それについては付帯事項として、困難な問題が生じた場合には、更なる検討が必要あるという答申にすればいい。

委員 : 前回の会議終了後に各地区のPTA役員、こども園の保護者役員に意見を聞いた。みなさん相当な不安を持っている。非常に走っているという考えが強い。どこの保護者会長も言っていた。このことを重く受け止めて、各地区で納得の上で答申を出すというようにしてほしい。

教育長 : 委員の意見を答申案に入れて事務局で作成し、また委員に修正していただきながら進んでいく。

委員長 : 今、中学校の統合に批判的な意見が出ているが、恵南の中学校を一つにするのは市町村合併に次ぐ大きなこと。この恵南地域が試されている。この地域が若い人たちや子ども達の力で変えていくことには中学校の統合が必要である。

副委員長 : いままでの流れがわからない状況で議論するのは難しいのはわかる。平成20年から7年間かけて議論している。不安はあると思うが、しっかり考えていただきたい。

21 : 22 終了